

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

北海道博物館協会のあり方

東日本大震災に被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。博物館施設でも甚大な被害を被ったところが少なからずあるようです。一日も早い復興を祈ります。

北海道博物館協会は、道内の博物館などの施設が自主的に集まって連携しそれぞれの館園と道内博物館全体の振興発展を目的として結成されました。発足以来、総会や研修会を通じて情報交換や相互協力をすすめ、博物館活動の条件整備に努めてきました。

協会は、平成22年に50周年を迎え、23年6月には第50回総会が開催されます。第二の半世紀に入るにあたって、協会の組織や運営のあり方を見直そうと「あり方検討会」が組織され、検討を進めてきました。昨年秋には会員アンケートをおこない、48館園から回答をいただき、問題点や課題の整理をおこないました。

協会運営の突っ込んだ見直しは、1995（平成7）年度の基本問題検討委員会でおこなわれました（基本問題検討委員会報告書、1996）。ブロック協議会の確立などが提言され、現在のような運営の仕方が整いました。けっこう活発で有意義な運営がなされてきたのではないのでしょうか。

しかし、報告書の提言が実行に移されてきた現在までの15年の間に、協会の会員数はピーク（1999年度、173館）を迎えながら、現時点では減少傾向にあります（2010年度、128館）。減少の原因は、館園の設置者である地方公共団体の財政難、および、市町村合併による機関統合や「協会加盟は1館」論などによる「やむを得ない」退会がほとんどです。道内の博物館活動全体が同じような比率で縮小しているわけではありません。

会員減に伴い主要な収入である会費が減少し財政規模の縮小も問題となっています。対策としてすでに節約の工夫がなされ、加盟館園現況のCD化など支出削減の措置がとられてきました。

会員として続いている館園も、けっして楽な状況ではありません。アンケートの結果でも、財政逼迫と人手不足が問題になっていることがはっきりしました。全国的に見ても、博物館活動の継続が脅かされる事態が危惧されています。

さて、こんな状況の中で、協会のあり方を考えることになりました。協会が目的を達成するために何が必要か、検討会でもさまざまな意見がでました。

- 総会をもっと有意義なものにしよう：研究発表や経験交流を深められるように分科会を設ける。全道から参加しやすいように札幌周辺で開催する回数を増やす。博物館経営の研修を含む館長会議や事務担当者会議を開く。
- 運営をスムーズにしよう：役員会の構成を見直す。役員会の開催時期を考え直し、実質的な審議ができるようにする。事務局の仕事の一部（道博協ニュースや館園現況の編集など）を理事が分担する。
- 協会の連携を強めよう：ブロック協議会の運営を確実にし、協議会相互の連携を図る。館種別協議会と連携する。ホームページをもっと活用する。
- 道内諸機関との連携を図ろう：北海道教育委員会や市町村会など道内諸機関との連携を図る。地域ごと、自治体ごとで社会教育機関・団体と連携する。

なにかが劇的に変わる、というものではありませんが、いろんな企画がより有意義なものになり、多くの会員・博物館スタッフが参加し、個々の館の活動が活発で楽しいものになる。新しい博物館も一度離れた博物館も加盟して会員が増える、そんな博物館協会に一步ずつ充実していける、そんな提案をめざしてまとめの作業をおこなっています。

6月30日の第50回総会で、あり方検討会の報告を紹介いたします。ぜひ釧路に集まり議論に参加してください。

（文責 あり方検討委員会 座長 澤村 寛）

石狩・後志
空知地区
News

所蔵資料と学芸員

先般、大阪府堺市の与謝野晶子文芸館を訪ねた。特別展「堺発 与謝野晶子～堺市所蔵初公開資料を中心に」を観覧し、森下明徳学芸員と面談するためだ。

与謝野晶子文芸館は、JR阪和線堺市駅前に建つ超高層ビルの3階に入っている。この度の特別展は、文芸館開館10年を記念し、晶子の着物、愛用の家具調度、写真、豪華な装丁で知られる著作などが並んだ。さすが晶子の名を冠した国内唯一の公立施設だけあって、出色のコレクションに目を奪われた。

収蔵庫に嚴重に梱包された晶子の百首屏風があった。森下学芸員は、全国に散在する百首屏風を調べ、実はどれも百首に満たぬこと、寛の渡欧費用の捻出が目的と言われてきたが、帰国後の制作が多いことを明らかにした。すでに研究し尽くされていると思われていた晶子研究に、まだ研究余地があることを示したものだ。

さて、星の降る里百年記念館には、与謝野寛・晶子晩年の弟子、故・西村一平が収集した新詩社関係資料群がある。これらは1995年『西村一平コ

レクション目録』として刊行したが、その後さらに資料が加わり、今や3,300点を数える。これら文学資料の価値判断は、専門の学芸員でなければ難しい。門外漢の私は、文芸館の森下学芸員に意見を伺った。

彼女は西村一平コレクションに感嘆していた。その理由として、新詩社最後の雑誌『冬柏』全巻が揃っていること、晶子の弟子の歌集が尽く集まっていることを挙げた。『冬柏』全192冊を所蔵する機関は国内3か所（京都鞍馬寺、日大三島校図書館、当館）のみで、新詩社同人の歌集は部数の限られた私家版が多く、他所では見られない存在とのこと。

当館のコレクションがそれほど珍しいとは、私は不明を恥じた。国内屈指の資料群と文学にさほど明るくない学芸員との巡り合わせ。これはまずい。資料は自ら語らないので、学芸員が猛勉強するしかない。今からどれだけ迫れるかとても心もとないが、この度の森下学芸員との交流では刺激を受けた。彼女の応援を仰ぎながら、これら貴重な財産の保存と資料群が持つ魅力の掘り起こしに努めたいと考えている。

(星の降る里百年記念館 学芸員 長谷山隆博)

道南ブロック
News

ピリカ旧石器文化館 「ピリカ遺跡まつり」

今金町ピリカ旧石器文化館では平成22年8月1日、史跡ピリカ遺跡を会場として「ピリカ遺跡まつり」を開催した。これは、毎年夏休みの最初の日曜日を利用し、主に子どもやその親をターゲットとして、ピリカ遺跡と気軽に触れ合う機会を提供しているもので、今回で5年目となる。

このイベントは美利河地区の観光施設、ダム管理所（開発局）と連携し、3施設が一体となって行う「ピリカまつり」の一環として実施しているもので、3施設を回る巡回バスを運行するなど、美利河で丸一日楽しめるよう工夫されている。最大の特徴は、各施設はもとより、地域のボランティア団体、自然保護団体、文化団体が連携をとり、企画段階から実行委員会を組織し、それぞれの団体が各イベントを責任もって運営する点であろう。

このピリカ遺跡では、遺跡ボランティア団体による勾玉づくり体験や火おこし体験、弓矢による射的体験のほか、自然保護団体による熱気球乗船体験、文化団体による押し花体験（遺跡の丘で採集した草花によるしおり作り）などが提供され、

すべてボランティアによって運営が支えられている。

特に熱気球乗船体験はこの会場の目玉で、20万㎡というピリカ遺跡の広さを体感してもらおうと、遺跡から直上に約30m昇降するもので、毎年、順番待ちで長い列ができる。残念ながら今回は雨で飛行が中止となったが、それでも1日約200名と大勢の親子連れでにぎわった。



(今金町教育委員会 学芸員 宮本雅通)

道北3管内
News

士別市立博物館 常設展示室のリニューアル

昭和56年に開館した士別市立博物館は、平成23年に開館30年を迎えます。

小規模ながら、地域の歴史や文化、自然を網羅的に紹介する常設展示は、生涯学習の場として、広く市民に親しまれてきました。その一方で、開館以来30年、展示内容の見直しは行われませんでした。また、平成17年には隣接する朝日町との合併が行われ、天塩川の最上流や天塩岳道立自然公園が市域に含まれることになり、市立博物館として取り扱うべき対象も拡大しました。

このような経緯を踏まえ平成22年度、当館では、展示テーマを「士別の歴史と自然」から「天塩川流域の歴史と自然」に改め、常設展示室のリニューアルを実施しました。

約1,500万円という低予算で実施したりニューアルですが、当館が優先して行ったのは、従来の入りくんだ壁と展示ケース、ジオラマなどの固定展示を取り払うことで、明るく見通しがよく、自前で展示更新が行える展示室を作ることでした。壁や床、展示ケースの色を白に統一し、できる限り外光も取り入れた展示室は、従来の「暗くて怖

い」というイメージを払拭できるものと思います。また、固定展示を取り除きピクチャーレールやメッシュパネルを随所に設置したことで、来館者の動線などを見ながら展示構成の調整を行えるようになりました。新しい展示室では、ノジュールを使った化石クリーニング体験など、「来館者が展示資料に触れて体験できる」をコンセプトとして、展示を行っています。

平成23年4月21日のオープニングセレモニーをもってリニューアルオープンしました士別市立博物館を今後ともよろしくお願ひいたします。



(士別市立博物館 学芸員 森 久大)

日胆地区
News

日胆地区博物館等連絡協議会 研修会 開催報告

10月14日・15日の両日、関係者19名が参加し、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場を主会場に今年度の研修会を開催しました。

1日目は、同牧場長の秦寛准教授から「馬と森の話-馬で豊かな森を作る」と題してご講演をいただいた後、秦場長自らのご案内で、総面積466haに及ぶ広大な同牧場のフィールドに飛び出し、北海道和種馬(ドサンコ)や肉用牛(ヘレフォード種)の、自然の地形を利用した自由放牧の様子を見学するとともに、同牧場の研究課題である、これらの放牧手法が家畜にもたらす効果や、森林や牧草地の植生に与える影響について解説していただきました。

また、牧場内を移動中、効果的なエゾシカの捕獲駆除方法といわれる「シャープシューティング」の実験場面にも遭遇し、シカに銃声を慣れさせるために一定間隔で鳴る爆音器や、シカを餌付けするためにシカのデコイを置いてトウモロコシをまいた餌場など、シカの群れをおびき寄せて射撃台からハンターが狙い撃つ捕獲方法についても説明



馬の放牧と森林植生との関係について見学

していただきました。

2日目は、日高山脈の測量史上重要な役割を果たした「ペラリ山」(718m)に登り、一等三角点や、三角測量による位置座標の補正を目的に設置された「天測点」の標石を見学する予定でしたが、雨天のため中止とし、新ひだか町地域交流センターと同アイヌ民俗資料館にて研修を行いました。

地域交流センターでは、軍馬の関連資料で北海道の馬産を紹介する静内郷土館企画展「戦争と馬」を見学し、アイヌ民俗資料館では、常設展示とアイヌの有用植物を育てる「アイヌ野草園」の見学を行い、2日間の研修を終えました。

(新ひだか町静内郷土館 学芸員 小野寺 聡)

道東3管内
News

「リウカ」を広くて使いやすくリニューアル 帯広百年記念館アイヌ民族文化情報センター

帯広百年記念館では、1月15日（土）より、これまで2階の廊下奥に設置されていたアイヌ民族文化情報センター、通称「リウカ」を1階に移設し、リニューアル・オープンしました。新「リウカ」は、旧オーディトリウムを大幅改装したもので、広くて明るい空間となり、より使いやすくなりました。

「リウカ」とは、十勝のアイヌ語で「橋」を意味する言葉です。「リウカ」の活動を通じて、多くの人々とアイヌ文化を繋ぐ「架け橋」の役割が果たせたら、という思いがこめられています。

室内には、アイヌ民族に関する書籍やDVDなどが多数設置され、来館者が自由に閲覧することができます。絵本や読み物などのわかりやすい解説書から、学術論文集や専門書までの幅広い図書を揃えている他、アイヌ文化を支えている北海道の自然史に関する図鑑類なども置いて、目的に応じた調べ物が出来るようになっています。

アクリル封入標本やサケ皮で製作した靴などの資料も展示されており、一部は直接手にとって見ることができます。また、「ウコニアシ」というア



リウカに集まって学芸員の話聞く子供達

イヌのボードゲームやコロポックルの塗り絵は、子供達に人気です。

「リウカ」では、北海道内だけでなく、全国

におけるアイヌ文化関連のイベントや新聞記事なども紹介しており、アイヌ文化を幅広く情報発信するセンターとしての機能も発揮してきました。学芸員が常駐し、レファレンスへも対応できる体制を整えている他、各種の講座も、「リウカ」を教室として開催していく予定です。

2006年1月に帯広市アイヌ施策推進計画に基づいて設置されて以来、約25000人に方々に利用されてきました。一方、1月のリニューアル・オープン以来、おびひろ氷まつりの期間中でもあった事から、2ヶ月間で既に来室者2000人に達しており、移転・リニューアルの効果は大きかったものと考えています。これからも、アイヌ文化の学習・情報発信拠点として、一層の充実をはかってまいります。

(帯広百年記念館 学芸調査員 持田 誠)

網走管内
News

網走管内博物館連絡協議会 平成22年度研修報告

網走管内博物館連絡協議会の今年度の研修は、前期研修が7月17日（土）北見市の北網圏北見文化センター、後期研修が12月18日（土）北見市ところ埋蔵文化財センターで開催された。

北網圏北見文化センターで行われた前期研修では、特別展「ミロ展」にあわせ、講演と特別展のギャラリートourを行ない、博物館関係者や一般美術愛好者など38名が参加した。

講演は「ミロの世界～残された言葉を手がかりに」と題して、北海道立帯広美術館学芸員の蘭部容子氏により、スペインの巨匠ジョアン・ミロの生涯と絵画を紹介するとともに、ミロの残された言葉から、彼の多岐にわたる作品と思想上の軌跡を紐解き、その研究成果を話された。

特別展では初期から晩年までを網羅した、フランス、スイス、アメリカ、日本の個人所蔵の145点の版画作品が展示され、ミロの全容を掘り下げて紹介され、充実したギャラリートourとなった。

後期研修は北見市ところ埋蔵文化財センターで、博物館関係者16名が参加し、ところ遺跡の森の山田哲主任の指導で、勾玉制作教室が開催された。

常呂川河口遺跡の縄文時代晩期の墓からは、ヒスイ製の勾玉が出土しており、勾玉作りをとおして、古代人の生活を知り、地域における体験学習として活用させる目的で行なわれた。

研修では北海道での勾玉の歴史と、解説説明を行なってから、制作にとりかかった。

実際には、既に原石の粗割りを経て、土台を整形されたものを研磨するところから始まり、1)粗い耐水ペーパーを使っておおよその形になるよう磨く。2)ハンドドリルの刃を軽く押し付けて静かに回し穴を開ける。3)粗目の耐水ペーパーで石の角を取り丸みを付け、形をととのえる。凸部分は、耐水ペーパーを卓上に置き磨き、凹部分やカーブしたところは、鉛筆に耐水ペーパーを巻きつけて磨くと楽に磨ける。4)最後は、1,500番以上の目の細かい耐水ペーパーで包み、中で石を巻くように磨き上げる。5)紐を通して完成となる。

本研修をとおして、勾玉などの「モノ作り」を楽しみながら体験することによって歴史が再認識され、理解度も増すことが分り、各館園の特徴を生かした体験学習をとおして、歴史、文化の教育普及の可能性を十分に感じ取ることができ、大変参考となる内容であった。

(広報担当：紋別市立博物館 佐藤和利)

動物園・水族館
News

は虫類・両生類館が オープンいたします！

当園では60周年を迎えた今年4月、「は虫類・両生類館」をオープンします。RC一部鉄骨造、地上2階・地下1階、延床面積は924㎡。設計デザインは札幌市立大学にご協力いただき、総工費は約4億1200万円です。

この「は虫類・両生類館」の展示コンセプトは、絶滅が危惧されている希少なは虫類・両生類の展示を通じ、動物の生息地で起きている環境問題を考えるきっかけを提供すること、そして哺乳類とは大きく異なる彼らの特殊な生態や色彩豊かな姿などの『魅力』を十分に伝え切ることであり、これに合う設計をいたしました。

まず建物・設備システムですが、札幌市立大学監修のもと、建築環境学上の工夫を取り入れました。放射方式による暖房と外断熱工法を採用し、室温・湿度調整が安定的にできる建物とし、また自然採光・自然換気が可能な高窓を設置したことなどです。

これにより、動物種ごとに要求される温度、湿度、光及び空気環境を、年間を通じてコントロールできるようになり、現施設では飼育が難しい両

生類を含め、展示種を現在の10種類から約60種へと増やします。

次に展示場についてですが、大型は虫類を展示する大型水槽ゾーンと、熱帯、亜熱帯、日本・温帯といった生息地ごとに分けた小中水槽ゾーンで構成いたしました。各水槽は、植栽や擬岩、演色性の高い照明を導入し、生息地にあったレイアウトをほどこし、観覧者の高揚感を創出しています。

また建物中央部にはガラス張りの「センターラボ」を設置しました。ここは、展示前の動物、冬眠や繁殖、また卵の孵化など「は虫類・両生類の一番面白い姿」や、繁殖研究に携わる飼育員の動きも含めご覧いただける、公開型バックヤードです。円山動物園は、今後、希少なは虫類・両生類の「繁殖センター」としての役割も担いたいと考えています。

彼らの宝石のような命の輝きを伝える、魅力満載の新「は虫類・両生類館」に、是非お越しください。



【オープン予定、は虫類・両生類館の外観】
(札幌市円山動物園長 酒井裕司)

学芸職員部会
News

「道南ブロック主催の 郷土学講座開催の顛末」

2月6日に「道南ブロック博物館施設等連絡協議会」(以下道南ブロック)で加盟館の学芸員及び専任職員に声をかけ、合作による「郷土学講座」を実施した。

今風の言葉で言えば「コラボ」とでも称する事業である。

道南ブロック会員の合作による講座を開設した目的は、「地域の教育・研究施設」として活動している道南の博物館・郷土資料館・美術館そして学芸員や選任職員の働きを理解してもらうとともに、各施設への集客をはかることだった。

このことは、永年の課題であり、これまでも何か良い方策はないものかと考えていたが、実施のための踏ん切りがつかなかった。今回とにかく清水の舞台から飛降りるつもりで「やってみよう」の気持ちで事業を立ち上げることにした。

手っ取り早く出来そうなことで思いついたのが、道南で一番人口の多い函館市をターゲットにした事業を起こすことだった。

考えた事業も単なる講演会ではなく、質疑応答を交えた講義様式にすること、質疑に対する応答は、講師全員で答えるようにしたことである。

どこの学芸員もそうだと思うのだが、ふだんは各々地元で、資料の収集・調査・研究や展示・教育普及事業にとりくみながら生涯学習者への学びをサポートし、郷土史研究家への助言や学校などへの出前講

座、過去を振り返ることで脳の活性化をうながす回想法講座等の実施などで地道に活動している面々である。

今回は、歴史編ということで18の会員館の中から、「道南の歴史を知る―幕末から明治初期―」というテーマにあわせて取捨選択し、選りすぐりの各館の蓄積された学芸情報を持ち寄り函館市内で発信することになった。

初めてのことで、どのくらい人が集まるのか不安だったが、全道版に掲載してくれた新聞社もあって、利尻や幕別町からも問合せがあり、札幌からはわざわざ足を運んでくれた方もいたので関心を集めたことは確かなようだ。

結局、予想をはるかに上回る179名が参加した。約3時間の長丁場になったのにもかかわらず、多くの人が帰らず最後の講義まで聴いていただいた。

一般の方の向学心の旺盛さに感心するし、これを利用しないのはもったいない。

また、当日のアンケート調査で次の開催を期待していることもわかった。

責任も重大だが「乞う！ご期待」といったところである。

次回は自然をテーマにした野外活動を交えた講座の開催を考えている。

また、今回の事業をしたことで研修会に活かせる課題も見えた。

まだ行なったことのないブロックがあれば、実施してみるとよろしいですよ、見えてくるものがあると断言します。

(知内町郷土資料館学芸員 高橋豊彦)





プラネタリウムを活用した 学校との連携授業

旭川市科学館では、2010年9月10日に開催された北海道小学校理科教育研究大会と2010年10月29日に開催された北海道中学校理科教育研究大会において、プラネタリウムを利用した学校との連携授業を行いました。

小中学校の理科授業における天文分野は、児童生徒の興味や関心が高いものの、実際に星空を野外で観察することが天候や時間等に左右されるため、日常生活と関連付けることが難しく、児童生徒の興味関心が必ずしも知識習得に結びついていません。今回のプラネタリウムを活用した公開授業では、星空の動きを疑似体験出来るプラネタリウムの機能を生かし、事前学習の中で生じた疑問や仮説を検証し、理解を深めることを目指しました。

また、限られた時間の中で授業を行うことから、授業の組み立てやプラネタリウムではどんなことが可能であるかなど、事前に教員の方々と科学館職員で進行方法や投影内容を模擬授業を重ねる中で検討し、プラネタリウムのドーム内に学校の校舎を映し出し方角を確認させることやクイズ形式で実際の理解度を把握するなど、プラネタリウム

ならではの機能を盛り込んだ授業となるよう心掛けました。

今回のプラネタリウムを活用した授業は、時間を短縮し、星の動きを実際に確認することが出来るため、児童生徒間の意見交換が活発化し、自ら考える姿勢が引き出されたものとなりました。科学的な見方や考え方を習得させるうえで、学校と社会教育施設の連携により、大きな効果が得られたと考えています。今後は、多くの学校が利用しやすいプログラムの構築を図っていくことが課題となります。



授業の様子

最後に、今回の取り組みにご協力いただいた旭川市教育研究会理科部会の皆様をはじめ関係者の方々に深く感謝申し上げます。

(旭川市博物科学館 山本和生)



第19回 北海道美術館学芸員研究協議会報告

3月3・4日、北海道立近代美術館において、第19回北海道美術館学芸員研究協議会が開催された。全道の美術館・博物館学芸員や研究者からなる会員は前回まで73名であったが、今年は退会者と訃報も相次ぎ、67名となった。それでも今回3名の新会員が加わって、初日は出席者55名とオブザーバー2名の参加で、会場は満席以上となった。総会に続く研究協議は、奥岡会長の常に基本に立ち返る姿勢から、「美術館と研究活動」をテーマに進行。宮城学院女子大学教授の井上研一郎氏の蠣崎波響研究の最新状況の講話より始まったが、井上氏は近代美術館、三岸美術館に勤務された経験があり、想出話もひとしきりあった。続く北海道大学教授の佐々木利和氏は、ご自身が携わったいくつかの地域博物館の地域と研究活動を事例に、地域に根ざすことの重要性を、説得力ある講話でいただいた。事例報告として釧路の教育大と美術館の調査研究プロジェクトの例を釧路市美術館の角井学芸員から報告、前年話題となった大型の展覧会「絵画と写真の交差」展を担当した芸術の森

美術館の岩崎学芸員の個人的な興味から研究、展覧会図録の執筆にいたる経緯の報告があった。2日目、研究発表は古道谷学芸員（網走市立美術館）の「居串佳一調査の現状」は難航する状況の訴えを、石尾学芸員（近代美術館）による「エコール・ド・パリ研究」では、こちらも記憶に新しい「レオナルド・フジタ」展担当で興味をもったことから調査をはじめ、研究紀要にまでまとめあげた当時の作家の関係性を、まさにみずみずしく報告、次いで鎌田学芸員（帯広美術館）は、蓄積された自身の栗谷川健一の研究から、わかりやすく作家から生まれたイメージの系譜を紹介した。

最後の佐藤副会長の閉会のあいさつが、今回のテーマの意義を端的にまとめあげていた。「美術館の研究活動の特徴は、1. (研究成果) 実現の手立てを持っている。2. 作品、資料と接近している。3. 情報が集約される場である。これを活かしていくことが、学芸員の使命である。」

コレクションがあり、研究活動あつての美術館、博物館の理念はこれからも揺るがしてはならない。



(北海道立近代美術館主任学芸員 久米淳之)

館園の主な展覧会と普及事業 (2011年4月～2011年10月)

石狩

いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)
4/17 野外講座「石狩ビーチコーナーズ／春の漂着物」
4/29～6/26 テーマ展「貝蛸大漁！アオイガイ大量！」
6/18 野外講座「地層と化石」
7/9～7/31 テーマ展「子母澤寛と河合裸石」
7/30 体験講座「土器作り教室」
(*9/17に野焼)

札幌市青少年科学館(011-892-5001)

4/23・5/21・6/25・7/23 科学館天体観望会
4/23 イブニングプラネタリウム
5/1～5/5 科学映画会・サイエンジャーワンダーランドGW
4/23・5/14 サイエンジャー科学教室
5/7 親子科学教室

札幌市円山動物園(011-621-1426)

4/29～5/8 円山動物園春まつり

北海道開拓の村(011-898-2692)

4/1～4/29 伝統遊具づくり『ギーギーゼミ』『板返し』
4/2 博物館ボランティア体験講座
4/22 先生のための村内ガイド
4/24 昔話のおはなし会
4/29～5/8 春・むら・ロマン～春の市街地群まつり～
4/23～5/5 季節展示・五月人形の展示
4/29～5/8 伝統遊具づくり『風車』
4/29～5/5 年中行事『端午の節句～兜づくり～』
4/29 北海道太鼓まつり
4/30 童謡・唱歌・わらべ歌
5/1 北海道郷土民話
5/1 江差追分演劇
5/1・5/8 写真館で記念撮影
5/3 豊職人の実演
5/3～5/5 大道似顔絵描き
5/3～5/5 旧島歌郵便局の開局
5/3～5/5 むらで遊ぼう昔の遊び
5/3～5/5・5/7～5/8 大道芸人の実演
5/3～5/5 年中行事『端午の節句～鯉のぼりの掲揚～』
5/4～5/5 鍛冶屋職人の実演
5/5 菓子づくりの実演
5/7～5/8 市街地群のむらびとのくらし～建物にむらびとが出現！～
5/9～31 伝統遊具づくり『風車』『武笛』
5/29 昔話のおはなし会
6/1～6/30 伝統遊具づくり『ぶんぶんゴマ』『割りばし鉄砲』
6/5 伝統文化「野だて(裏千家淡交会楡青年部)」
6/18～7/10 むらの切り絵作品展
6/18・6/25 切り絵教室
6/26 昔話のお話し会

7/1～7/31 伝統遊具づくり『落下傘』『水鉄砲』

7/2 うたごえ音楽会「杜のささやき心のうた」

7/16～7/18 第29回北海道開拓の村児童写生会

7/22～8/28 特別展「大正百年」

7/22～8月中旬 季節展示・蚕の飼育

7/29 先生のための村内ガイド

北海道立文学館(011-511-3266)

4/23～5/22 特別展 追悼・後藤竜二展～子どもたちへの応援歌～高田三郎・小泉るみ子兄妹展
4/23・5/5・6/4・7/2・8/3・8/4・9/3・10/1～わくわく～こどもランド

6/4～7/10 特別展 日が過ぎ去って僕のみは～福永武彦、魂の旅～

6/10 朗読会「作家による朗読会」

7/15 カルチャーナイト2011

7/23～8/28 ファミリー文学館 絵本の原画を運ぼう！～現代版北前船の旅 あべ弘士「かちかち山」

7/27・7/28・7/29 夏休み文学道場「中高生のための創作講座」

8/5・8/6・9/2 連続朗読会 朗読&楽器演奏(海、風をテーマに・・・)

9/16～11/7 特別展 赤色エレジーから小梅の初恋 林 静一展

9/23 文学館まつり

10/30 文芸講演会「文字・活字文化の日関連講習会」

北海道立近代美術館(011-644-6682)

2/5～4/10 常設展 ○日本の美一屏風・掛軸・絵巻の世界 特別展示:道産子追憶之巻 ○ガレ・ガラスコレクション～エミール・ガレとナンシー派

4/2～4/10 特別展 札幌ピエンナーレ・プレ企画-アートから出て、アートに出よ。-美術館が消える9日間

4/16～5/22 常設展 ○北海道美術に見る 出会いと創造 ○オブ・アート-視覚の魔術 ○新収蔵品展

4/16～5/22 特別展 インカ帝国のルーツ 黄金の都 シンカ展

6/2～7/3 特別展 国立エルミタージュ美術館所蔵 皇帝の愛したガラス-ヨーロッパからロシアへ ガラスの美500年

6/2～9/11 常設展 ○むじゃきなコレクション-美術のなかのこどもたち ○現代ガラス-アメリカ、ヨーロッパ、日本の潮流 ○ふれるかたち

6/11 ミュージアムコンサート「エルミタージュ宮殿に花開くロマノフ朝の祝宴」

6/25・7/2 映画上映会『エルミタージュ幻想』(ソクーロフ監督)

7/15 P.M.Fアカデミー他コンサート

7/15 美術館協力会主催「ジュニア・アートクラブ」

北海道立三岸好太郎美術(011-644-8901)

4/1～6/5 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第1期 蝶の夢・特別展示 蝶の標本コレクション

6/10～8/21 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第2期 道化・サーカス・人形劇

8/26～10/23 所蔵品展 三岸好太郎の世界 第3期 音楽のある美術館3

7/1 開館記念日(無料開放)、アニヴァーサリー・コンサート

7/15 カルチャーナイト(夜間無料開放) P.M.Fアンサンブル演奏会

7/23～8/21 たんけん美術館 夏休み

7/29～7/30 とっておきワークショップ

8/2～8/4 フリー・アトリエ

8/5 人形劇(予定)

8/11 三岸寄席(予定)

10/29～1/15 特別展 おばけのマールと絵のふしぎ

北海道大学総合博物館(011-706-2658) 企画展示

2/18～5/8 先住民と国境-アイヌと境界-

3/8～5/29 豊平川と私たち-その生いたちと自然-

4/5～6/5 ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡

4/8～5/8 保苅実写真展「カントリーに呼ばれて」

5/13～11/20 精神は境界を越えて-ロシア・東欧作家の言葉と心

7/2～11/20 Lepidoptera(レピドプテラ)-空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界-

市民セミナー

4/9 「何が出る豊平川の花見かな」

5/14 「札幌の市街地西部山麓にあった温泉」

5/21 「ロシア文学と境界」

6/11 「昆虫の起原と初期進化:多様性を生み出した原動力」

6/23 「詩人ゲンナジー・アイギと言語の境界」

7/9 「葉に潜る昆虫-ホソガ科」

7/16 「ナボコフとジャンル越境」

後志
小樽市総合博物館

4/2～6/3 小さな企画展「旧手宮線に咲く花」

4/9～6/19 企画展「花と潮風の路-小樽海岸自然探勝路の植物」

4/16 ミュージアム・ラウンジ「スライドで見る自然探勝路の花々」

4月の土・日曜日・祝日 4月のチャレンジラボ「光るスーパーボール作り」

4月～6/13 デジタルプラネタリウム 春の番組

4/23 お散歩自然観察会「早春の山中海岸を歩く」

4/29～5/1・5/3～5/5 GWデジタルプラネタリウム特別投影
 4/29～5/1 昼の観望会「太陽をみよう！」
 5/1～5/5 科学実験コーナー
 5/1・5/3・5/4 学芸員のトークショー
 5/5 「はくぶつかんの五月のせつく」
小川原脩記念美術館(0136-21-4141)
 4/21～5/29 小川原脩 自伝風な展覧会—私が歩んできた道
 4/21～5/29 横山文代展—光と風・透明感のある風景
 6/2～8/21 小川原脩 自伝風な展覧会—遙かなるイマージュ
 7/22～8/21 しりべしミュージアムロード共同展
 8/25～10/2 小川原脩 自伝風な展覧会—チベットその聖と俗
 8/25～10/2 第53回麓彩会展
 8/29～9/30 造形展「風の中の展覧会Ⅷ」
 10/6～11/13 小川原脩 自伝風な展覧会—定番作品展
 10/6～11/13 米澤邦子展

空知

三笠市立博物館(01267-6-7545)
 5/3～5/5 「化石レプリカ作り体験」
 「化石クリーニング体験」「展示解説ツアー」
 7/9～11/3 特別展「白亜紀の恐竜(仮題)」
 7/26～7/28 「体験実習 化石って何？」
滝川市美術自然史館(0125-23-0502)
 展覧会
 4/23～5/22 「たきかわカルタ原画展」～彼方アツコ 銅版画の世界～
 6/4～6/12 「第57回 滝川美術会展」
 7/23～8/28 「子ども科学館開館20周年/美術自然史館・こども科学館合同特別展「そら、なう～ふるさとの空から宇宙まで～」
 7/27 化石教室
 4/17・5/29・7/1 裸婦デッサン会
 5/20・7/29 ナイトミュージアム・コンサート

渡島

市立函館博物館(0138-23-5480)
 4/29～7/10 企画展「幕末の動乱と蝦夷地への道」
 7/23～9/11 特別展「伊勢神宮と北海道」

上川

旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)
 4/29 春の科学館まつり
 4/29～5/5 発見！探検？「GWサイエンススタジオ」
 7/16～9/4 特別展「ロボワールド(仮)」
北海道立旭川美術館(0166-25-2577)
 4/12～5/22 剣淵町絵本の館コレク

ション 世界の名作絵本原画がやってきた！
 6/1～7/3 北欧の美しい暮らし LIFE & DESIGN 織田憲嗣コレクション
 4/1～5/22 情景遊歩/新収蔵品コーナー
 6/1～11/13 木から生まれたかたち GORON！
名寄市北国博物館(01654-3-2575)
 5/20～6/12 巡回展「森の神 シマフクロウ展」
 6/18～7/17 なつかしの建物水彩画展Ⅱ
 5月～12月の第2土曜(8月を除く) 小さな自然観察クラブ

宗谷

稚内市北方記念館(0162-24-4019)
 4/29～6/12 稚内周辺の野鳥—稚内周辺にやって来る野鳥たちの写真展—
 6/23～7/12 シマフクロウ展(第19回道北地区博物館等連絡協議会巡回展)

胆振

室蘭市青少年科学館(0143-22-1058)
 4/3 菊作り講習会
 4/19～4/24 科学技術週間 実験・工作教室
 4/23 さつき育成教室
 4/30～5/1 原子・分子模型展 ～窒素原子～
 5/3～5/5 ゴールデンウィーク科学館祭
 5/14 春の市民園芸相談会
 6/9～6/12 第42回 さつき展
 7/2 『はれるん』とお天気教室(予定)
室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)
 4/10 とんでん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
 5/5 民俗資料館フェスティバル
 7月末～(9月予定) 企画展「室蘭の看板」展(仮)

日高

沙流川歴史館(01457-2-4085)
 4/26～5/29 「町有牧野第11牧区遺跡発掘調査成果展」
新ひだか町静内郷土館(0146-42-0394)
 4月～7月 新着収蔵資料展
 5月～6月 郷土の自然、歴史、文化を知り学ぶ体験学習

十勝

北海道立帯広美術館(0155-22-6963)
 4/1～4/13 常設展「顔・かお・カオ～描かれた心のかたち～」
 特別展「風景に、浸る。自然と、遊ぶ。」
 4/22～6/22 常設展「神々の物語」
 特別展「ハウステンボス美術館・博物館所蔵 無限迷宮

M.C.エッシャーの全貌」
 7/1～9/7 常設展「自然へのまなざし—バルビゾンの絵画と写真」
 特別展「開館20周年記念 十勝の美術クロニクル」
 4/23 美術講演会
 5/7・6/4・7/23 特別展セミナー
 5/14・7/16 キッズ・ミュージアム
 7/9 美術講演会
 7/30 サマー・ミュージアム

釧路

北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
 4/12～5/21 釧路芸術館 コレクション・ギャラリー
 4/30 アートシネマ館「市民ケーン」
 5/28～7/18 佐川美術館所蔵 平山邦夫展—大唐西域画への道—
 5/28～6/19 細見浩 木版画展
 6/25 アートシネマ館「マルタの鷹」
 6/22 大人の家庭科①
 6/29 大人の家庭科②
 7/6 大人の家庭科③
 7/24～8/28 佐々木秀明展+アート5
 7/24～8/17 キッズ・アトリエ

網走

北海道立オホーツク流氷科学センター(0158-23-5400)
 4/1～ つくば巡回展「ナノテクノロジー解説展示装置」
 4/9～5/15 流氷絵手紙
 4/16～5/8 オホーツク四季写真展過去優秀作品再展示
 ～4/26 つくば巡回展「シャドームービー」
 5/1～5/4 いきいき陶芸会展示会
 6/1～6/30 流水のまち「オホーツク紋別」絵手紙交流展
 7/3～7/18 第10回 紋別押し花の会作品展
北網走北見文化センター(0157-23-6700)
 4/18～4/24 科学技術週間
 5/17～11/6 プラネタリウム「ケロロ軍曹 星空をとりもどせ！太陽系大追跡であります」
 4月～1月 天体観望会
 5月～2月 少年少女発明クラブ
 4/2～4/10 文化センター講座・サークル展
 5/8・5/15・6/19・7/10 楽しい自然観察会
 5/11・6/29・7/20 おさんぽ自然観察会
 6/18～8/27 シルクスクリーン講座(全10回)
 7/16～8/21 企画展「巨匠たちのパレット&絵画展」
 7/28・8/5 夏休み自然体験教室
 8/27～9/1 夏休み作品標本展
 9/10～10/29 染色講座(全8回)
 9月(2回) 北見市文化財めぐり
 6月・10月 美術ボランティア見学研修